

作成日 2025年 5月 23日

改訂日 年 月 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	: コールドシールドジェル
製品コード	: RT300
会社名	: アサダ株式会社
住所	: 愛知県名古屋市北区上飯田西町3-60
担当部門	: 営業本部
電話番号	: 052-911-7165
FAX番号	: 052-914-2062
メールアドレス	: sales@asada.co.jp
緊急連絡電話番号	: 052-911-7165 (月曜日から金曜日の8:30~17:00)
推奨用途	: 熱遮断剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康有害性	: 急性毒性 (経口) 区分4
	: 急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト) 区分2
	: 眼に対する重篤な損傷性/眼 区分2A
	: 皮膚感作性 区分1A
	: 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分1(呼吸器)
	: 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1(呼吸器)
環境有害性	: 水生環境有害性 短期(急性) 区分3
	: 水生環境有害性 短期(慢性) 区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	: 閾値上、非該当
注意喚起語	: 閾値上、非該当
危険有害性情報	: 飲み込むと有害
	: 吸入すると生命に危険 (気体、蒸気、粉じん及びミスト)
	: 強い眼刺激
	: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
	: 臓器の障害 (呼吸器)
	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器)
	: 水生生物に有害
	: 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	: なし
安全対策	: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
	: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
	: 取扱い後は手をよく洗うこと。

- : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- : 屋外又は換気の良い場所で使用すること。
- : 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- : 環境への放出を避けること。
- : 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- : 換気が不十分な場合は呼吸用保護具を着用すること。

応急処置

- 火災の場合 : 消火するために適切な消火剤を使用する。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水／石鹼で洗うこと。
- 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合 : 医師の診察/手当てを受けること。
- : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- : 医師の診察／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合 : 医師の診察／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- : 口をすすぐこと。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師に連絡すること。
- : 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
- 保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- : 施錠して保管すること。
- 廃棄 : 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理施設に破棄すること。
- 特有の危険有害性 : 目に刺激をもたらす恐れ。
- 使用上の注意 : 禁煙。
- : 容器を密閉して置くこと。
- : 涼しいところに置くこと。

3. 組成及び成分情報

成分名	ケイ酸リチウムマグネシウムナトリウム塩
CASNo.	53320-86-8
化学式	LiMgNaO6Si2
官報公示整理番号（化審法）	-
成分及び含有量％（質量比）	1.0-2.0%

成分名	キサンタンガム
CASNo.	11138-66-2
化学式	C35H49O29
官報公示整理番号（化審法）	(8)-535

成分及び含有量%（質量比）	0.1-0.5%
---------------	----------

成分名	1,3,5-トリアジン-1,3,5(2H,4H,6H)-トリエタノール
CASNo.	4719-04-4
化学式	C ₉ H ₂₁ N ₃ O ₃
官報公示整理番号（化審法）	5-998/5-1080
成分及び含有量%（質量比）	0.0-0.1%

成分名	水
CASNo.	7732-18-5
化学式	H ₂ O
官報公示整理番号（化審法）	-
成分及び含有量%（質量比）	残分

4. 応急措置

- | | |
|---------------|--|
| 吸入した場合 | ： 新鮮な空気を吸う。激しく咳き込んだり、呼吸困難な状態のときは酸素吸入を行う。呼吸が止まっている場合は、人工呼吸を行う。被害者が物質を摂取または吸入した場合は、口対口蘇生を行わない。症状（喘鳴、咳、息切れ、口、喉、胸の灼熱感など）が現れた場合は、医師の診察／手当てを受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | ： 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐ。皮膚を水又はシャワーで洗う。皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗う。皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合は医師の診察、手当てを受ける。 |
| 眼に入った場合 | ： 水または生理食塩水で20～30分間洗浄する。コンタクトレンズをしている場合は外す。その後も十分に洗い流す。眼の刺激が続く場合は医師の診察、手当をする。 |
| 飲み込んだ場合 | ： 口をすすぐ。無理に吐かせようとしない。意識がある場合は、コップ1～2杯の水を飲ませて化学物質を薄める。頭がふらふらする、意識が無い、もしくは嘔吐している場合は、回復体位で横向きに寝かせる。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡する。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | ： 診断から見られる患者の徴候や症状に応じて治療する。
本製品以外の物質へ過度にばく露した可能性も考えられる。 |

5. 火災時の措置

- | | |
|--------------|---|
| 適切な消化剤 | ： 通常の泡、二酸化炭素、粉末の消火剤、水噴霧、消火薬剤 |
| 使ってはならない消化剤 | ： 棒状注水。 |
| 火災時の特有の危険有害性 | ： 消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。
燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。高圧水によって製品を飛散させないように注意する。
火災の場合、有害物質（亜硝酸ガス；窒素酸化物、一酸化炭 |

素、二酸化炭素、ギ酸アルデヒド) が放出される可能性がある。

- | | | |
|-----------------------|---|---|
| 特有の消火方法 | : | 周囲の容器を水スプレーで冷却する。可能であれば、容器を危険区域外に持ち出す。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | : | 関係者以外は安全な場所に退去させる。
安全が確保出来るのであれば、火災エリアから容器を遠ざける。火災に接触した容器を冷却するために水をかける。
飛散した粉塵や燃焼して分解したガスなどを吸引しないよう風上に立ち、低位の場所から避難する。 |
| 危険な燃焼生成物 | : | 煤煙、ガス、蒸気、酸化炭素、種々の炭化水素 |

6. 漏出時の措置

- | | | |
|-----------------------|---|--|
| 人体に対する注意事項 | : | 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しない。
風上から作業して、風下の人を待避させる。 |
| 環境に対する注意事項 | : | 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
粉塵の飛散に注意しながらほうきで掃き取るか、掃除機などで集めて回収する。本品は吸水すると膨潤し粘滑性を帯びるので、床などで吸水したものは多量の水で洗い流してきれいに除去する。水域に対する危険性は低い。多量に水、排水、下水、または地中に入った場合は、自治体に連絡する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | : | 飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。
不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。すべての着火源を取り除く（現場での喫煙、火花や火炎の禁止）危険でなければ漏れを止める。少量の場合、ウエス、雑巾等でよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。大量の場合、盛土等で囲って流出を防止する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |
| 二次災害の防止策 | : | 環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。
漏出物を回収する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。火花を発生しない安全な器具を使用する。 |
| 物質が放出または流出した場合に取るべき措置 | : | 流出/漏洩：流出物を不活性物質（例：バーミキュライト、砂、土）で吸収し、適切な容器に収容する。 |
| 清掃方法 | : | 不活性の吸収素材でこぼれをふき取る。
こぼれたエリアを適切な洗浄剤及び水で洗う。
安全が確保出来るのであれば漏れを止める。
乾いた土、砂または他の不燃性物質で吸収させるか覆い、容 |

器に移動する。吸収した物質を集めるには火花を発生させない工具を使用して下さい。蒸気抑制泡剤は蒸気を減らすために用いる。

大量の漏れの際には後に回収するため、液体が漏れた箇所に土手を作る。

個人予防措置

- ： 呼吸器の保護機能を備える適切な保護用具を着用する。
- 流出物質に触れること、その上を歩くことは避ける。
- 適切な保護用具を着用していない時は破損した容器や漏洩物に触れない。

緊急予防手順

- ： 直ちに全ての方向に最低半径 50 メートルの距離を漏洩地域として隔離する。着火源を除去する。
- （隣接地域での喫煙、閃光、火花または火災は禁止）。
- 低地へ近づくことは避ける。関係者以外は近づけない。
- 風上に留まる。密閉された場所に入る前は換気をする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

取扱者のばく露防止

- ： 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しない。

技術的対策

- ： 禁煙。本製品は流動や攪拌などにより、静電気が発生することがある。静電氣的に敏感な物質を積みなおす場合は、容器及び受器を接地、結合する。容器に加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴開け、研磨操作を加えることや、容器を熱、火災、火花、または他の発火源にさらしてはいけない。容器は爆発し、傷害や死亡事故を引き起こす恐れがあります。適切な換気をせずに使用しないで下さい。局所排気装置を使用すること。容器を転倒、落下、衝撃、引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいならない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。水濡れや乱暴な取扱いを避け、粉末を飛散させない。皮膚、眼および衣類との接触、飲み込みを避ける。使用前に取扱説明書を入手する。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。容器を開けたままにしない。飛沫を避ける。接触を避ける。補給または移送には排気装置付きの漏れ防止装置を使用する。

火災・爆発の防止

- ： 禁煙。

急所排気・全体換気

- ： 排気/換気設備を設ける。

安全取扱注意事項

- ： 保護手袋/保護眼鏡を着用する。
- ： 取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。
- ： 取扱中は飲食、喫煙しない。
- ： 容器を開けたままにしない。飛沫を避ける。接触を避ける。

接触回避等の安全取扱注意事項 衛生対策		： 補給または移送には排気装置付きの漏れ防止装置を使用する。
		： 水、湿気、高温体との接触を避ける。
		： 取扱い後は汚染箇所をよく洗う。
保管		： 皮膚に触れないようにする。
		： 眼に入らないようにする。
		： この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしない。
		： 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする。
		： 蒸気またはミストの吸入を避ける。
		： 10℃～25℃での保管推奨。
	安全な保管条件 (適切な保管条件及び避けるべき保管条件)	： 直射日光を避け、よく換気がされていて発火点から離れており、施錠して保管する。涼しく気温の低い場所で保管して下さい。使用時以外は容器を密閉して下さい。不適合物質からは遠ざけて下さい。保管場所は製品が汚染されないよう清潔にする。
	混触禁止物質	： 強酸化剤
	安全な容器包装材料 (推奨材料及び不適切材料)	： 国連輸送法規、消防法で規定されている容器を使用する。 ： 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。
	不適合物質及び発火源	： 熱源及び発火源、酸化性物質、強酸物質から離す。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名		ケイ酸リチウムマグネシウムナトリウム塩	キサンタンガム	1, 3, 5-トリアジン-1, 3, 5 (2H, 4H, 6H)-トリエタノール	水
管理濃度・許容濃度	管理濃度	データなし	設定なし	-	-
	日本産業衛生学会 (20XX年度版)	2mg/m3 (吸入性粉塵) 8mg/m3 (総粉塵)	設定なし	-	-
	AGCIH (TLV-TWA)	-	設定なし	-	-

設備対策	： 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する床排水溝がある場合はトラップを設ける。
適切な衛生対策	： 適確な工業衛生管理に従って安全に取り扱う。 本製品の取扱い後、飲食または喫煙前は手を石鹼と水で十分に洗う。作業場の近辺に洗眼器と安全シャワーの設置が望ましい。
保護具	： JIS・国家検定に適合した保護具の使用を推奨する。 厚生労働省の皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアル等を参考に、該当法規に従った適切な保護具を選定し、使用する。 防毒マスクの選択については、以下の点に留意する。防毒マスクは、電動ファン又は面体が国家検定合格品であることを確認し、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。作業者が粉じ

- んにばく露される環境で防毒マスクを使用する場合には、防じん機能付き吸収缶を使用する。酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。
- 呼吸用保護具：呼吸用保護具（防じんマスク・防毒マスクなど）を着用すること。防毒マスクを使用する際はガスの種類に対応した吸収缶を選定する。
- 手の保護具：耐薬性のある保護手袋
- 眼の保護具：保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
：ガスが発生する場合はゴーグルを着用する。
- 顔面の保護具：保護は必要ありません。
- 皮膚及び身体の保護具：皮膚への広範囲に及ぶばく露の恐れがあるところでは、耐薬性のある保護衣を着用して下さい。保護長靴，長袖作業衣
- 特別な注意事項：大気中汚染濃度をばく露ガイドライン/制限未満に制御するよう適切な換気を実施する。
- 環境へのばく露制御：作業場の管理と廃棄物の処理を十分に実施する。
環境への放出を避ける。

9. 物理的及び化学的性質

化学名	ケイ酸リチウムマグネシウム ナトリウム塩	キサンタン ガム	トリアジン トリエタ ノール	水
物理状態	粉末	固体	液体	無色
色	白色	白～類褐色	無色～黄色 みがかった 色	透明
臭い	無	わずかにに おいがあ る。	データなし	データなし
外観	データなし	データなし	データなし	液体
融点/凝固点	データなし	データなし	-79 °C（ガ ラス転移 点）	0°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし	データなし	110.1 °C	100°C
可燃性	データなし	データなし	可燃性、低 引火性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界	データなし	該当しない	データなし	データなし
引火点	データなし	該当しない	>200 ° F	データなし
自然発火点	データなし	該当しない	データなし	データなし
分解温度	約700°C	該当しない	データなし	データなし
pH	10.5 (2%蒸留水分散時)	5.0%～ 8.0% (1%水溶 液)	約 10 (20°C、2 g/L濃度)	5.0～ 7.5 (25°C)
動粘性率	データなし	該当しない	412 mPa*s (20°C)	データなし

溶解度	データなし	水に易溶、 有機溶媒に 不溶	水：(20℃) (混和)	メタノール ，エタノール ，アセトン および
n-オクタノール/ 水分分配係数 (log 値)	データなし	データなし	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし	<0.1 Pa (室 温) (無視 できる)	データなし
相対ガス密度	データなし	該当しない	データなし	1.00 g/mL
粒子特性	データなし	データなし	データなし	データなし
その他のデータ	データなし	データなし	データなし	データなし
蒸発率	データなし	データなし	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	： 通常の使用条件の下で判明している有害反応はなし
化学的安定性	： 通常温度及び気圧の下で安定している
危険有害反応可能性	： 水溶液は、中程度の強さの塩基である。 アルミニウムおよび 亜鉛と反応する。 引火性/爆発性ガス(水素)を生じる。
避けるべき条件	： 混触危険物質との接触。 直射日光、高温、火花、裸火、火気、静電気、加熱、 爆発性混合気の形成、使用中の電気回路
混触危険物質	： 強酸化剤、アルミニウム、亜鉛、還元剤
危険有事な分解生成物	： 火災の場合、酸化炭素、炭化水素、ガス、煙、煤煙を生成 する恐れ ハイドライドのような強力な還元剤により、可燃性のガス状 水素を発生する。 金属酸化物、水素など
素材不適合性	： 酸化剤、強酸
安定性	： 安定
不安定さを避けるべき条件	： なし

11. 有害性情報

成分	ケイ酸リチウムマグネシウム ナトリウム塩	キサンタン ガム	トリアジン トリスエタ ノール	水
急性毒性	データなし	(経口) L D50> 1,000mg/kg ・ラット (経口) L D50> 45,000mg/kg ・イヌ (経 口) L D50 > 20,000mg/kg ・マウス (腹腔内) L D50> 50mg/kg ・マウス (静脈内) L D50100- 250mg/kg	経口：区分4 吸入(粉塵, ミスト)：区 分2	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし	データなし	データなし	データなし
発がん性	データなし	データなし	データ不足 のため分類 できない。	データなし
生殖細胞の感作性	データなし	データなし	データなし	データなし
重篤な目の損傷/刺激性	データなし	データなし	区分2A	データなし
皮膚の腐食/刺激性	データなし	皮膚刺激性 区分2	区分に該当 しない	データなし
皮膚の感作性	データなし	データなし	区分1A	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし	データなし	区分1 (呼吸 器)	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく 露)	データなし	特定標的臓 器毒性 (単回ばく 露) 区分3麻 酔作用	区分1 (呼吸器)	データなし
生殖毒性	データなし	データなし	データなし	データなし
標的臓器	データなし	中枢神経系	区分に該当 しない。	データなし
侵入/ばく露経路	データなし	吸い込み、 皮膚、目、 飲み込み	データなし	データなし

吸い込み 急性（即時性）	データなし	中枢神経系に影響を及ぼす恐れあり。症状はめまいや眠気、倦怠感、昏睡状態、死亡を含むガスの吸引は中枢神経に損傷をもたらす恐れあり	データなし	データなし
吸い込み 慢性（遅発性）	データなし	データなし	データなし	データなし
皮膚 急性（即時性）	データなし	皮膚の刺激をもたらす	データなし	データなし
皮膚 慢性（遅発性）	データなし	長期のまたは反復ばく露の場合は皮膚炎をもたらす恐れあり	データなし	データなし
眼 急性（即時性）	データなし	軽度の目の刺激をもたらす恐れあり	データなし	データなし
目 慢性（遅発性）	データなし	データなし	データなし	データなし
飲み込み 急性（即時性）	データなし	刺激をもたらす恐れあり	データ不足の為、分類できない。	データなし
飲み込み 慢性（遅発性）	データなし	データなし	データなし	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
水生環境有害性 短期(急性)	: 区分3
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分3
残留性・分解性	: 化審法分解度試験：良分解性
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 当該物質はモントリオール議定書の附属書A～C及びEに列記されていない。
他の有害影響	: 本製品を下水道や水路に流さない。
PBT 及び vPvB のアセスメント結果	: 適応外

13. 廃棄上の注意

廃棄方法	: 内容物/容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。
	: 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性

残余廃棄物	を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装 リサイクルに関する情報 廃棄規制	： 本製品を含む廃液および洗浄廃水を直接河川等に排出したりそのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 ： 容器は清浄しリサイクルするか、国内および使用地域の法令に従って適切に処理する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上

国連番号	： 2810
品名	： その他の毒物（有機物）（液体）、n. o. s.
国連分類	： 6.1
容器等級	： 試験結果によってⅠ～Ⅲを決定する。
海洋汚染物質	（該当・非該当）
MARPOL及びIBCコードによる	（該当・非該当）

航空

国連番号	： 2810
品名	： その他の毒物（有機物）（液体）、n. o. s.
国連分類	： 6.1
容器等級	： 試験結果によってⅠ～Ⅲを決定する。
海洋汚染物質	（該当・非該当）

国内規制

陸上

特別の安全対策	道路法、消防法の規定に従う 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
---------	--

緊急時応急措置指針番号	153
-------------	-----

海上

船舶安全法の規定に従う。

航空

航空法の規定に従う。

その他注意	： 直射日光を避け、紙袋の破損、腐食、漏れの無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
-------	---

15. 適用法令

労働安全衛生法

- ： 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条、労働安全衛生規則別表第2）
- ： 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2、労働安全衛生規則別表第2）
- ： 危険性又は有害性等を調査すべき物（法第57条の3）
- ： 皮膚等障害化学物質（労働安全衛生規則第594条の2）
- ： 作業場内表示義務（法第101条の4）

航空法

- ： 毒物類（施行規則第194条危険物告示別表第1）

船舶安全法

- ： 毒物類（危規則第3条危険物告示別表第1）

港則法

- ： その他の危険物・毒物類（毒物）（法第20条第2項、

規則第 12 条、危険物の種類を定める告示別表)

化学物質管理促進法 (PRTR 法)

: 第一種指定化学物質 (法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1

食品衛生法

: 食品添加物に関する各条が適用される。

16. その他の情報

危険度評価システム

記載内容は、現時点で入手した情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては
いかなる保証をなすものではありません。

注意事項は、通常の実施を前提としたもので、特別な取扱いをする場合には用途、用法に適した
安全対策を実施の上、取扱い願います。